

武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校開校準備委員会 第5回 本部会

令和7年10月30日(木)

午後5時30分～7時45分

於 サウスピア 武蔵浦和コミュニティセンター第8・9集会室

次 第

教育長挨拶

【議事】

- 1 「未来の姿」について p.3-4
- 2 各ワーキンググループからの報告
 - (1) 給食室運営(今後の見通しについて) p.5-6
 - (2) 学校地域協働(関係団体のあり方について) p.7-9
 - (3) カリキュラム(制服・金管バンドについて) p.10-12
 - (4) 校名・移行イベント(開校式・校歌・校章について) p.13-14
- 3 令和8・9年度開校準備委員会組織と参加者構成(案)について p.15-25
- 4 意見交換(校名の絞り込みについて) p.26-30
- 5 その他

【事務連絡】

- (1) 次回の開催について

第6回本部会については、1月下旬に開催予定です。

開催1か月前を目途にご案内いたします。

武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校開校準備委員会 本部会

第 5 回

令和 7 年 1 0 月 3 0 日

教育委員会事務局 武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校開校準備室

- 1 武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校の「未来の姿」について
- 2 各ワーキンググループからの活動報告
 - (1) 給食室運営より（今後の見通しについて）
 - (2) 学校地域協働より（関係団体のあり方について）
 - (3) カリキュラムより（制服・金管バンドについて）
 - (4) 校名・移行イベントより（開校式、校歌・校章について）
- 3 令和8・9年度の開校準備委員会組織と参加者構成（案）について
- 4 意見交換（校名の絞り込みについて）
- 5 その他

1. 武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校の「未来の姿」について

前回（R7.7.24 第4回本部会）の意見交換より

A グループ

- ・子どもが中心となり、すくすく伸びやかに育つ学校
- ・多様な人材を活かし、地域の拠点となる学校
- ・9年間のたくさんの繋がりの中で、一人ひとりの可能性を広げられる学校

B グループ

- ・9年間ならではの特色を活かして、子どもたちの可能性を伸ばす学校
- ・つながりあふれる地域の拠点となる学校

C グループ

- ・多様な人とのつながりを活かし、多様な価値観をもつ子どもたちの育成ができる学校
- ・9年間のつながりと、9年間一貫したカリキュラムでの学び
- ・地域に親しまれる、多様な学びの拠点となる学校

1. 武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校の「未来の姿」について

- ・9年間の一貫した教育活動を通して、子どもが中心となり、すくすく伸びやかに育つ学校
- ・9年間ならではのたくさんの繋がりの中で、多様な価値観をもつ一人ひとりの可能性が伸び、広がる学校
- ・多様な人材が交流し、地域から愛され、繋がりあふれる地域の拠点となる学校



■ 子ども（児童生徒）が学ぶ場として

- 9学年の幅広い交流の機会を通して一人ひとりの可能性を広げられる学校
- 9年間を見通し、小中の繋がりを意識した系統立てられたカリキュラムが編成されている学校
- 校舎内・校舎間(縦の繋がり・横の繋がり)から生まれる多くの交流を通じ楽しく勉強でき居心地のよい学校
- 各校の良さを残しつつ、9年間の縦の繋がりを通じて健やかにのびのびと安心して過ごせる学校

■ 地域の核（拠点）として

- 地域から学び、地域も学ぶ学校 子どもたちと地域との活発な交流で、9年間をわくわく主体的に学べる学校
- 学校を中心にした絆が地域の力を高め、人々に安心と生きがいを与える学校
- 笑顔とあいさつで地域の交流が豊かになり、皆で助け合う気持ちが高まる安全・安心な学校
- 親しみと愛着で地域から愛され、誰にとっても生涯の学びの拠点となる学校

■ 子ども（児童生徒）が学校生活を営む場として

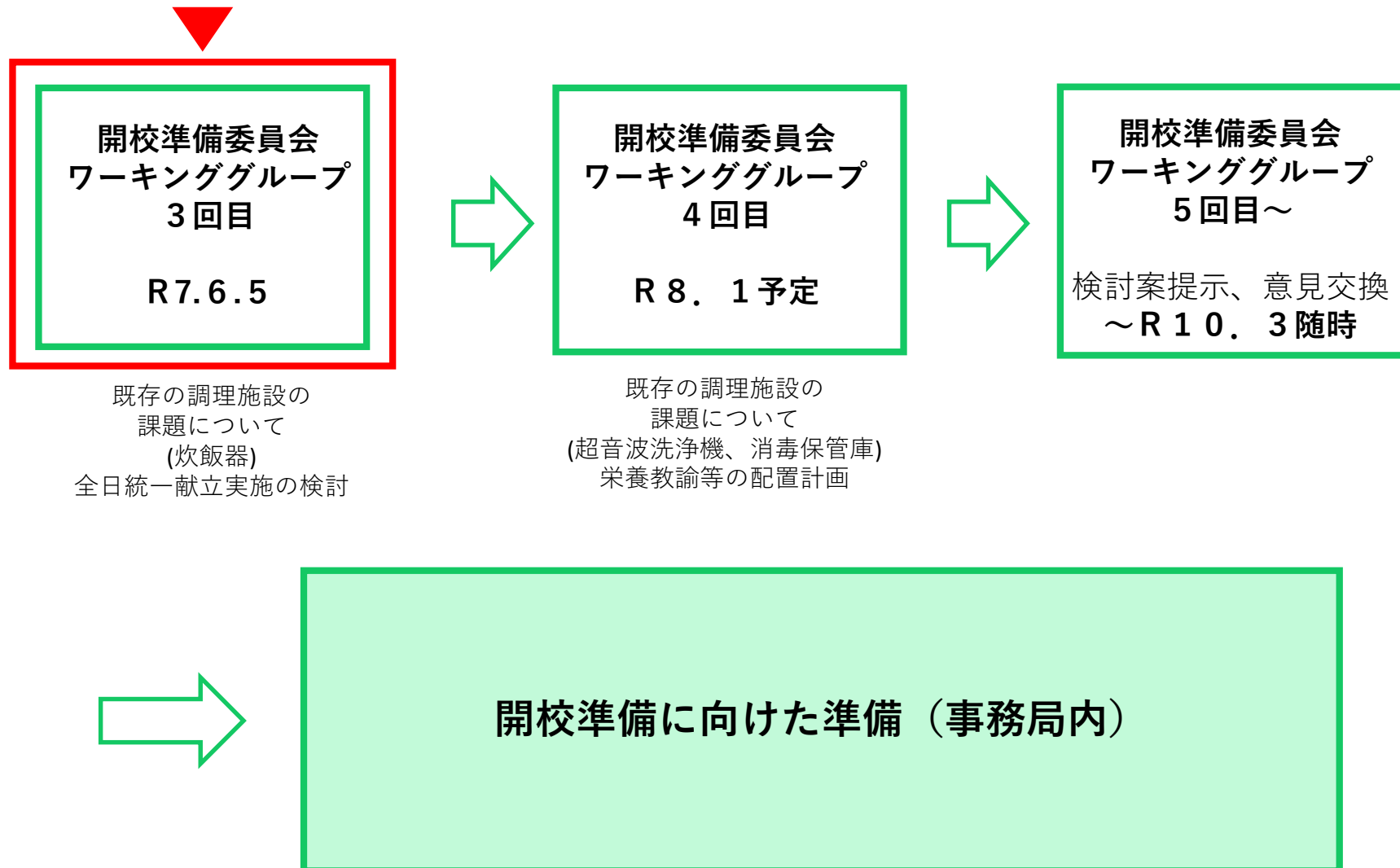
- 多様な考えや価値観を尊重し、活かすことができる学校
- 教職員の目が行き渡り、子どもたちに寄り添う学校
- 安全に登下校ができ、学校内においても安全に生活できる学校
- 日頃から1～9年生が協力し合って生活し、多くの交流の中で絆を深められる学校
- 校舎間の交流を通じ互助的な精神を育成する学校

■ 教職員の役割と働く場として

- 小・中・校舎間の垣根を越えたそれぞれの教職員の交流による新たな連携と進化を生む学校
- 子どもに信頼され、適切に関われる教職員集団である学校
- 9年間の成長を教員・地域・保護者のチームとして見守る学校

2. 各ワーキンググループからの活動報告（1）給食室運営より（今後の見通しについて）

■ スケジュール



2. 各ワーキンググループからの活動報告（1）給食室運営より（今後の見通しについて）

WG 意見交換事項

- ・給食提供時間 ⇒ 前期課程（1～6年）と後期課程（7～9年）で現状の小中学校と同様に概ね **20～25分程度、提供時間に差** を設ける。
※開始時間については教育課程を考慮
- ・給食提供回数 ⇒ 前期課程は小学校、後期課程は中学校と回数を合わせる。
- ・3校舎の献立 ⇒ 全日 **統一献立** を実施する。
（沼影、内谷、浦和大里校舎）
※厨房機器の差を解消するために可能な範囲で **機器の改修及び増設** 等を行うこと。
※3校舎における **支払い等の会計処理** についても **統一する** こと。

今後検討事項

【～R8. 3】

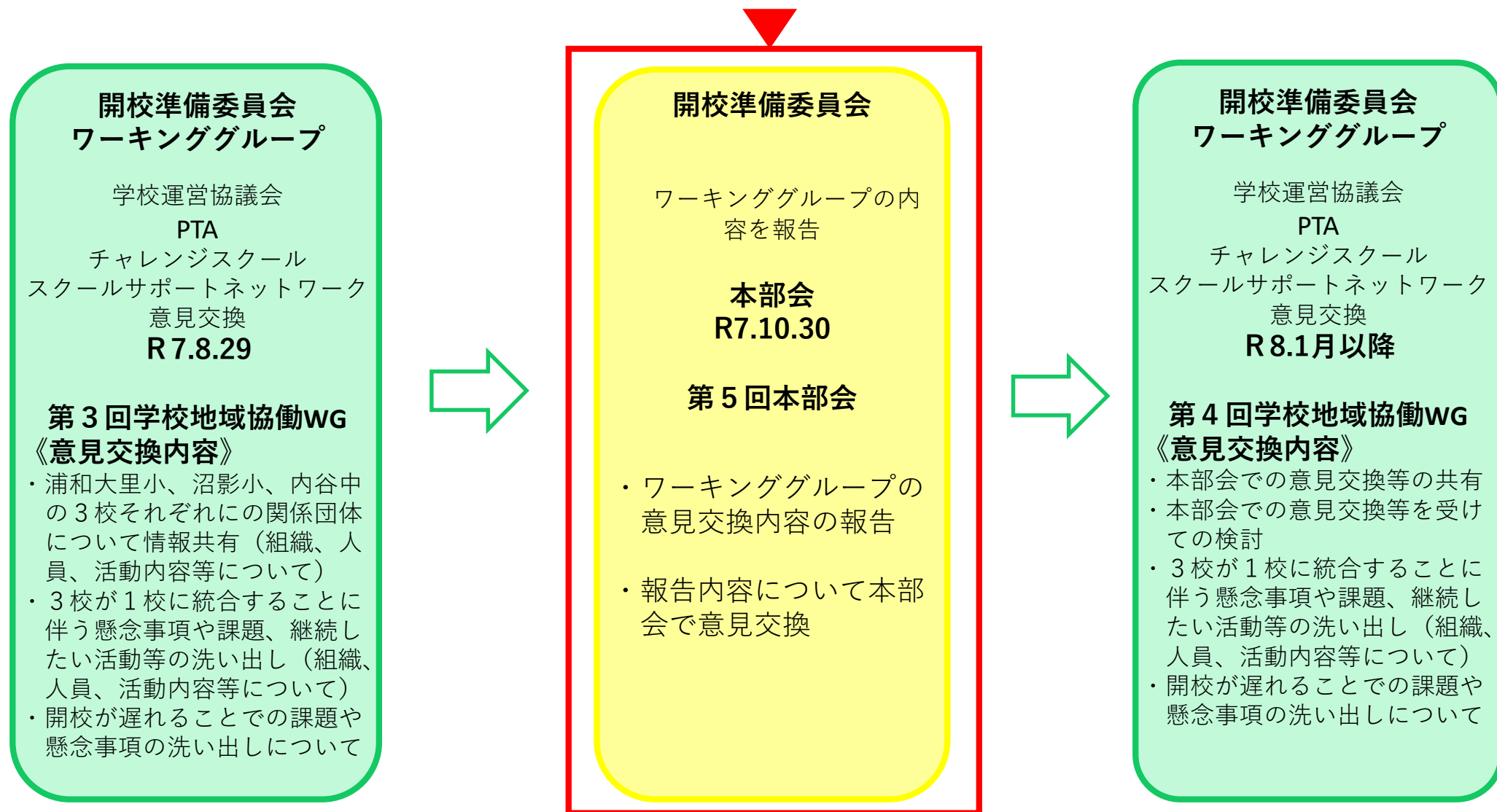
- ・既存給食室の現地調査を踏まえた厨房機器の増設及び食器類の導入
- ・栄養教諭及び補助員の配置に関する事項

【～R10. 3】

- ・調理委託契約及び保守委託契約等の仕様及び契約手法
- ・沼影新校舎における調理器具類及び食器類の購入に関する事項
- ・会計処理、納入業者に関する事項
- ・衛生管理、献立マニュアル等に関する事項

2. 各ワーキンググループからの活動報告（2）学校地域協働より（関係団体のあり方について）

スケジュール



2. 各ワーキンググループからの活動報告（2）学校地域協働より（関係団体のあり方について）

ワーキンググループの実施状況

■ 実施日：8月29日（第3回）

第2回目WG（R7.3月）での御意見を踏まえ、①～④について意見交換を行った。

■ 参加者からの主な御意見

① 学校運営協議会について

- ・ 学校運営協議会は1つ設置。校舎毎に活動できる組織を設けたい。
- ・ 学校運営協議会委員は規定通り30名以内でどうか。校舎毎の組織にも30名の委員が分かれて所属するのはどうか。
- ・ 校舎毎の組織で会議をもったうえで学校運営協議会を開催する流れがよい。

② PTAについて

- ・ PTAとしては1つの組織だが、校舎毎に実働できる組織を設けてはどうか。
- ・ PTA活動は3校の良い部分を取り入れつつ完全ボランティア制に移行できないか。
- ・ デジタル化も含めてPTA活動の内容をよりよく変える良いタイミングである。
- ・ 未加入世帯を増やさないための取組が必要。
- ・ 3つの学校がよりよく1つの学校になるために今から準備をすすめたい。

2. 各ワーキンググループからの活動報告（2）学校地域協働より（関係団体のあり方について）

ワーキンググループの実施状況

■ 実施日：8月29日（第3回）

第2回目WG（R7.3月）での御意見を踏まえ、①～④について意見交換を行った。

■ 参加者からの主な御意見

③ チャレンジスクールについて

- ・ 実行委員会の本部を1つ設置。校舎毎それぞれの分科会のような組織を設けたい。
- ・ 沼影校舎の7～9年生に体験活動を導入する良いチャンス。5・6年は学習と体験を流動的に選択できる活動（校舎の移動も含む）でもいいのではないか。
- ・ ボランティアの確保、活動場所の確保が課題。

④ スクールサポートネットワークについて

- ・ 各校のSSN協議会を継続させ、各校舎の現状を共有する会を定期的に設けてはどうか。
- ・ 現在学校毎に行われている活動を、開校後はどのようにするのが子どもたちにとってよいのかについて、各団体で考えていきたいとの意見があった。
- ・ 防犯ボランティアの活動は学区が広がるため、ボランティアの確保ができるか心配。
- ・ 学校地域連携CNは、各校舎に1人ずつを配置してはどうか。

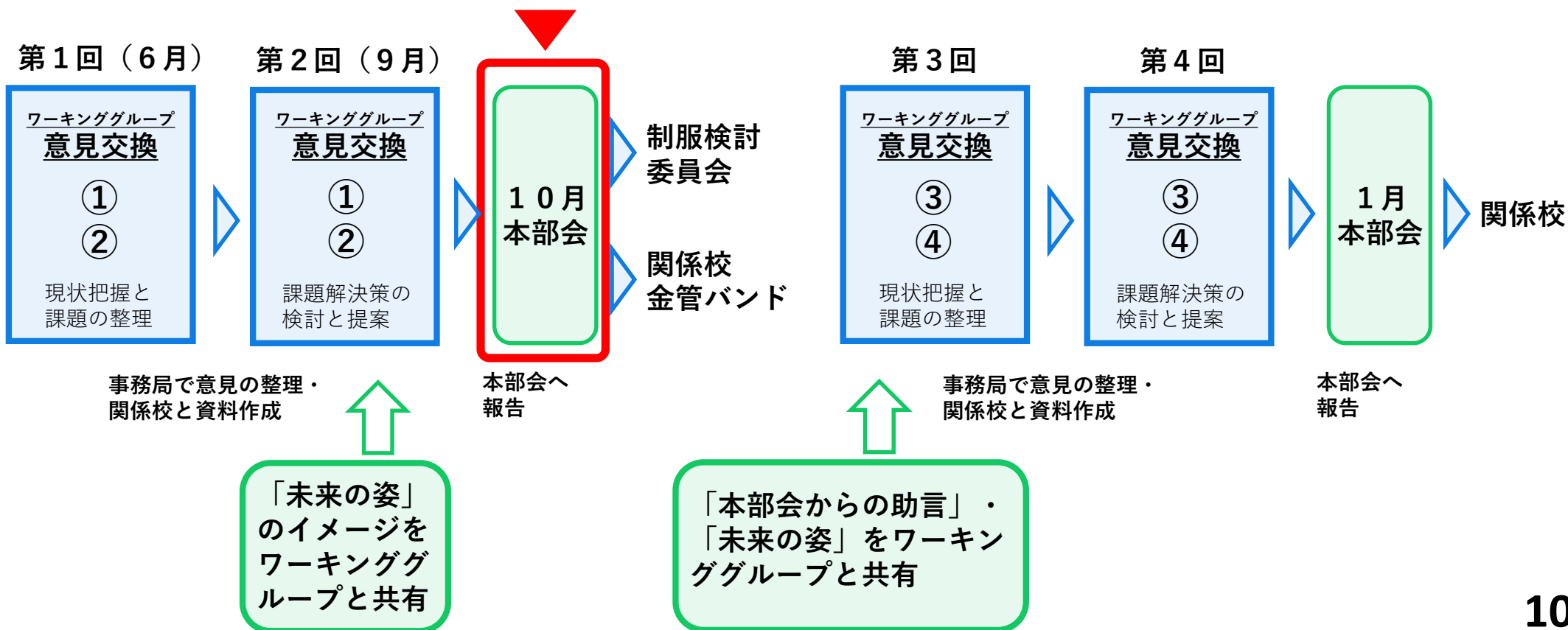
2. 各ワーキンググループからの活動報告 (3) カリキュラムより (制服・金管バンドについて)

令和7年度カリキュラムワーキンググループで行う意見交換の内容

- ① 制服について
- ② 金管バンドの活動について

- ③ 日課表について
- ④ クラブ活動について

短期的なスケジュール



2. 各ワーキンググループからの活動報告 (3) カリキュラムより (制服・金管バンドについて)

■ 制服に関する意見交換について

(1) 「先行事例」 「未来の姿イメージ」

【先行事例】

「制服の多様性について」
☞男女同じデザインのプレザー。スラックス・スカートとリボン・ネクタイを選択制に。
※オールジェンダーの視点

「熱中症事故の防止について」
☞夏用ポロシャツを作成する。

02 環境の変化・制服の多様化に対応の新しい時代の制服の導入
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
2022年度よりジェンダー平等に配慮し、男女同じデザインのプレザーを取り入れ、スラックス・スカートとリボン・ネクタイを選択制にした新しい時代の制服を導入しています。また、気候の変化に配慮し、夏場にYシャツ・ブラウスの代わりとして、ポロシャツの導入もしています。

出典:片柳中学校ホームページより

「服装指導について」
☞『学校は学ぶところ』ということについて子どもたちと考える。儀式等の服装についても、場にふさわしい服装について考えるように指導。

「一体感の醸成について」
☞制服がないことを自校の魅力として一体感を醸成。

※制服自由化 (私服登校可)
参考:日高市立 武蔵台小中学校 校長からの聞き取りより (義務教育学校 令和5年4月開校)

【未来の姿】

「制服の価格について」
☞安価なもの (メーカー既存品) を制服として採用。

出典:大宮北高校 ホームページより

「子どもの意見反映について」
☞生徒会での話し合いやアンケート調査等を通じて、子どもの意見を反映

参考:片柳中学校等

未来の姿のキーワード
「多様な考えや価値観を尊重」
「たくさんの人とつながる」
「居心地のよい」

※令和7年度第2回カリキュラムWG配布資料より

(2) 第2回WG意見概要 (何を検討する必要があるか) (いつごろ誰の声を聞く必要があるか)

- ・学校のビジョン (目指す子ども像) が本検討の前提。
- ・中学生から小学生に今の制服について伝える機会があるとよいのではないか。
- ・制服のとらえ (有無・あり方) について、まずは広く子どもや保護者の声を聞くとよいのではないか。

～上記のことを踏まえた上で～

- ・制服が必要となれば、デザインや価格、着用場面、対象学年、選択制の可否等について、子どもや保護者の声を聞きながら検討。
- ・制服が不要となれば、私服の基準等について、子どもや保護者の声を聞きながら検討。

(3) カリキュラムワーキンググループの意見交換を踏まえた今後の方向性

未来の姿

今の制服
について
(中学生から
小学生へ)

制服の
とらえに
ついて
(子どもや
保護者から)

【制服あり】

- ・デザインや価格、着用場面、対象学年、選択制の可否等の検討
※子どもや保護者の声を聞きながら

【制服なし】

- ・私服の基準等の検討
※子どもや保護者の声を聞きながら

2. 各ワーキンググループからの活動報告 (3) カリキュラムより (制服・金管バンドについて)

■ 金管バンドに関する意見交換について

(1) 第1回の意見交換を踏まえた、第2回の検討事項

- ・校舎が離れた4年生の入部・活動には、移動が伴うため、活動時間の確保や移動時の安全性の確保等に課題がある。
- ・4年生にも入部を希望する児童がいる可能性がある。
- ・吹奏楽部に吸収する形で5年から9年まで合同で活動した場合には、小・中それぞれの大会等に参加できる年齢の決まりを考慮する必要がある。



- 校舎や発達段階の垣根を越えた、ゆるやかなつながりを築く「金管バンド」を目指してはどうか。
- ①入部は5年生からとし、基本活動場所を沼影新設校舎とするのはどうか。
 - ②1～4年生にも活動の様子が見られるように、演奏会、交流会等を開催するのはどうか。(オンライン等も含む)
 - ③体験として、4年生の希望者が参加できる期間を設けるのはどうか。(「学期に数回」、「3学期を中心に」等)
 - ④吹奏楽部とは個人練習やパート練習の際に、合同で活動し交流の機会をつくるのはどうか。
また、大会や演奏会等に応じて練習する曲が異なる際には小学校段階・中学校段階別に活動するのはどうか。
- 【留意事項】
- ・小・中学校段階で活動が別になることを考慮し、保護者会についても別組織とし、会計を別にするのはどうか。



(2) 第2回WG意見概要

【①について】

- ・移動に関する課題が解決できる
- ・2年間の活動目的を明確にする必要がある
- ・沼影新設校舎での活動は7～9年生からもアドバイスを受けやすい

【②について】

- ・運動会や音楽会等の各行事も含め、上級生の様子が見られる機会は、あこがれをもてるようになる
- ・交流会の際に、楽器を体験できる
- ・交流会は、下級生が参加しやすいよう、いつ・どのように開催するか

【③について】

- ・4年生に参加機会を設けることはよい
- ・頻度、引率者等をどうするか
- ・3年生の参加は認めるか

【④について】

- ・年間スケジュールから合同、単独を計画する
- ・7年時に部活動の選択をする機会がある
- ・同じ校舎での活動となるので、場所や時間の面で、十分な活動ができるか
- ・指導者の配置をどうするか

※令和7年度第2回カリキュラムWG配布資料より

(3) カリキュラムワーキンググループの意見交換を踏まえた今後の方向性



【5年生から入部】

- ・2年間の明確な活動計画の作成
- ・7～9年生との活動機会の創出(合同・単独の年間スケジュール)
- ・活動場所の設定
- ・指導者の配置

【下級生との交流】

- ・4年生以下が参加しやすい演奏会、交流会等の企画(体験型、オンライン型等)
- ・運動会や音楽会等の各行事も含めた教育活動の計画

2. 各ワーキンググループからの活動報告（4）校名・移行イベントより（開校式、校歌・校章について）

■ 校舎及び棟の呼び方について

- 校舎名
：校名募集時より使用中



- 沼影校舎の各棟の呼び方（開校当初の便宜上のもの）
：開校後、在籍児童生徒の意見をもって決定



■ 校章及び校歌について

- ・ 校章や校歌については、ともに開校年度の二学期に学校が決定することを目安に、開校後に児童生徒が主体となって募集を行って決定していく。
⇒ 募集方法の詳細は4月当初に学校が決定（先行事例：生徒会による生徒への募集など）
- ・ 校歌は、地域にゆかりのある人に作詞や作曲をしてもらえるとよいという意見があった。

2. 各ワーキンググループからの活動報告（4）校名・移行イベントより（開校式、校歌・校章について）

■ 移行イベントについて

- ・本義務教育学校の開校前の各学校のイベント（閉校式等）は各学校が実施する。

→ 校名・移行イベントワーキンググループでは、開校式について意見交換を行った。

○開校式について……市主体で実施

- ・次第：本市の先行事例(右)と同様
- ・時程や日程：元の三校と開校前年度に
打ち合わせて決定
- ・実施方法：各校舎で同時に実施し、
以下のようにオンライン
中継の予定。

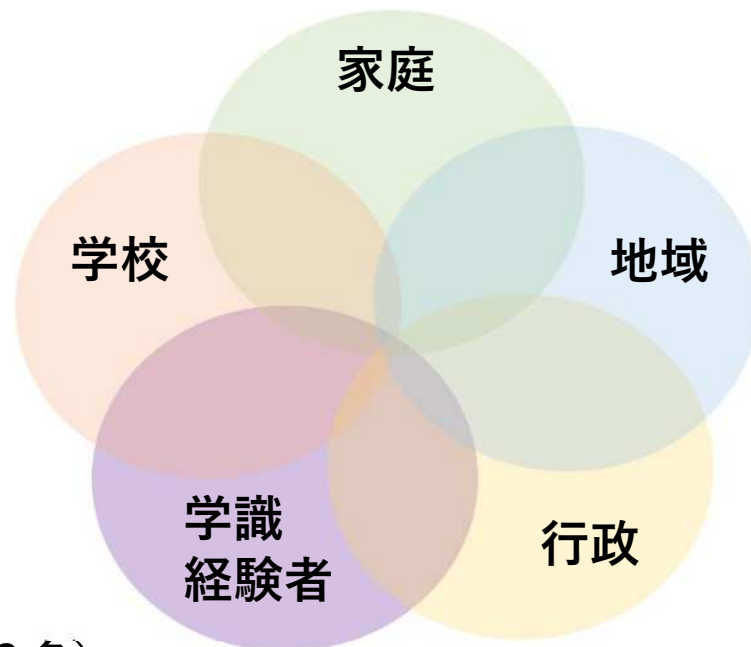
開校式の次第（先行事例）

1	開	式	の	言	葉	
2	国	歌	の	齊	唱	
3	鍵	引	渡	し	・ ・ ・	市長→校長と児童生徒 2 名
4	式	辞				
5	来	賓	祝	辞		
6	来	賓	紹	介		
7	祝	電	披	露		
8	誓	い	の	言	葉	・ ・ ・ 代表児童生徒
9	閉	式	の	言	葉	

	沼影校舎	浦和大里校舎	内谷校舎
開校式 (イメージ)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 在校生（5～9年生）と来賓が参加 ・ 式の様子をオンラインで中継 ・ 会場：体育館（アリーナ） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 在校生（2～4年生）が参加 ・ オンラインで参加 <p>→ オンライン接続場所として考えられる場所</p> <p>① 各校舎体育館 ② 各校舎教室</p> <p>③ 沼影校舎の教室</p> <p>（沼影校舎の在校生が体育館にいる間）</p>	

3. 令和8・9年度の開校準備委員会組織と参加者構成（案）について

開校準備委員会では、通学区域や制服のあり方など、義務教育学校の開校に向けた準備を学校・家庭・地域・行政が連携・協働して進めています。



学校 校長、教頭等（56名）

家庭 P T A 役員等の保護者（のべ41名）

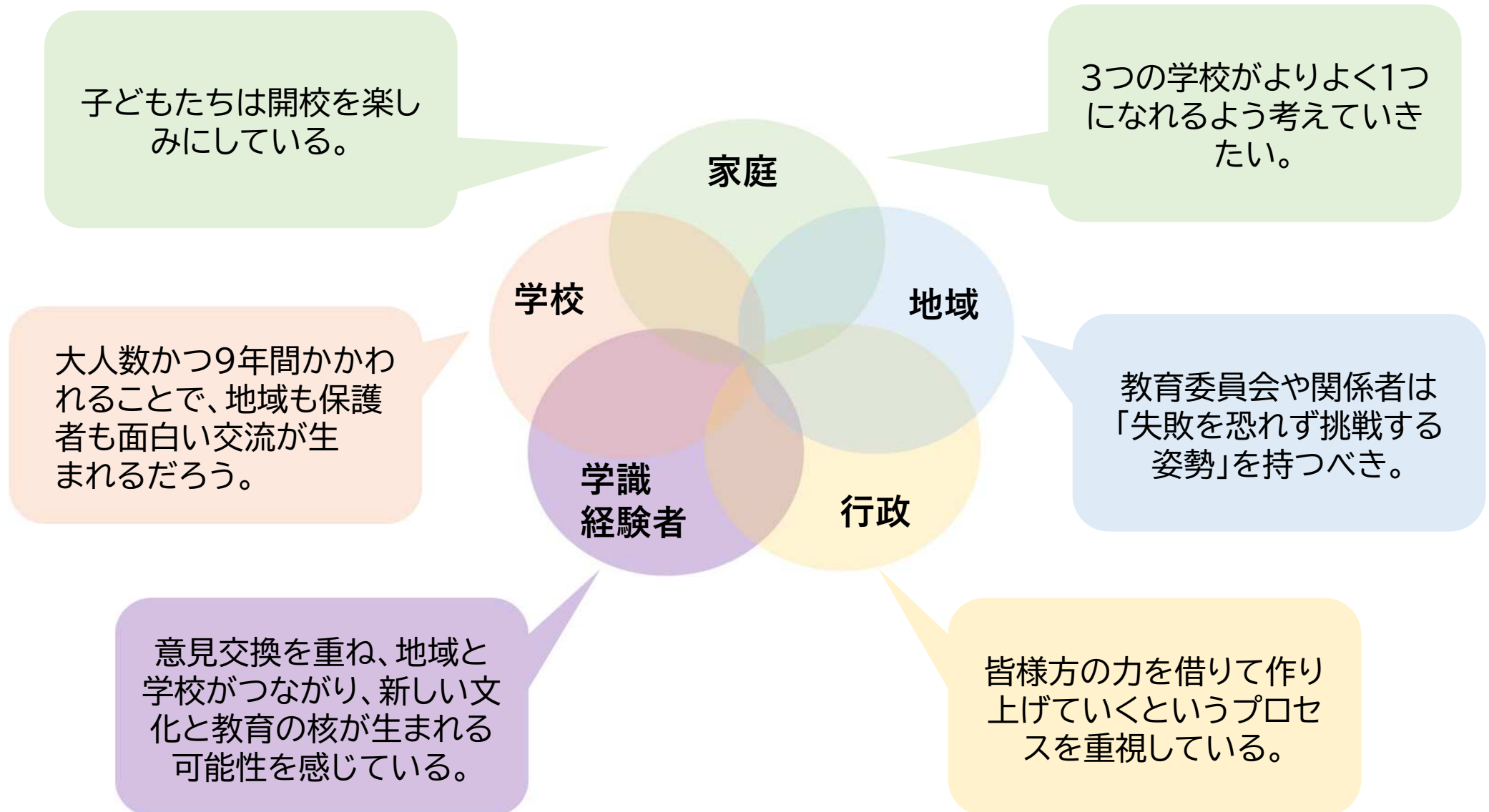
地域 学校運営協議会委員、自治会等（のべ45名）

学識経験者 大学教授

行政 さいたま市教育委員会事務局（開校準備室、各ワーキンググループ筆頭所管課所室等）

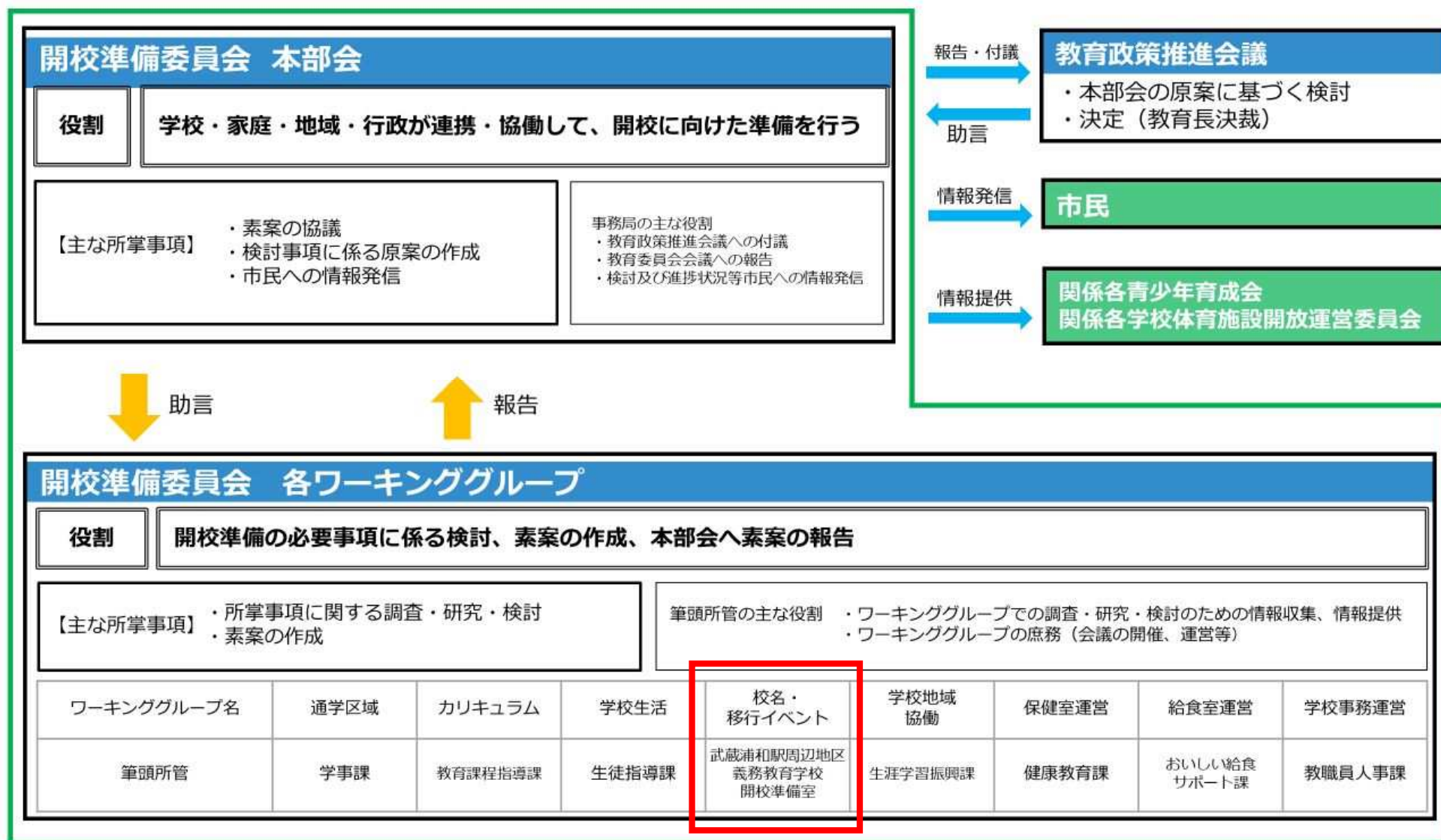
3. 令和8・9年度の開校準備委員会組織と参加者構成（案）について

推薦や公募によるのべ140名を超える参加者と、今後も様々な意見交換を行います。



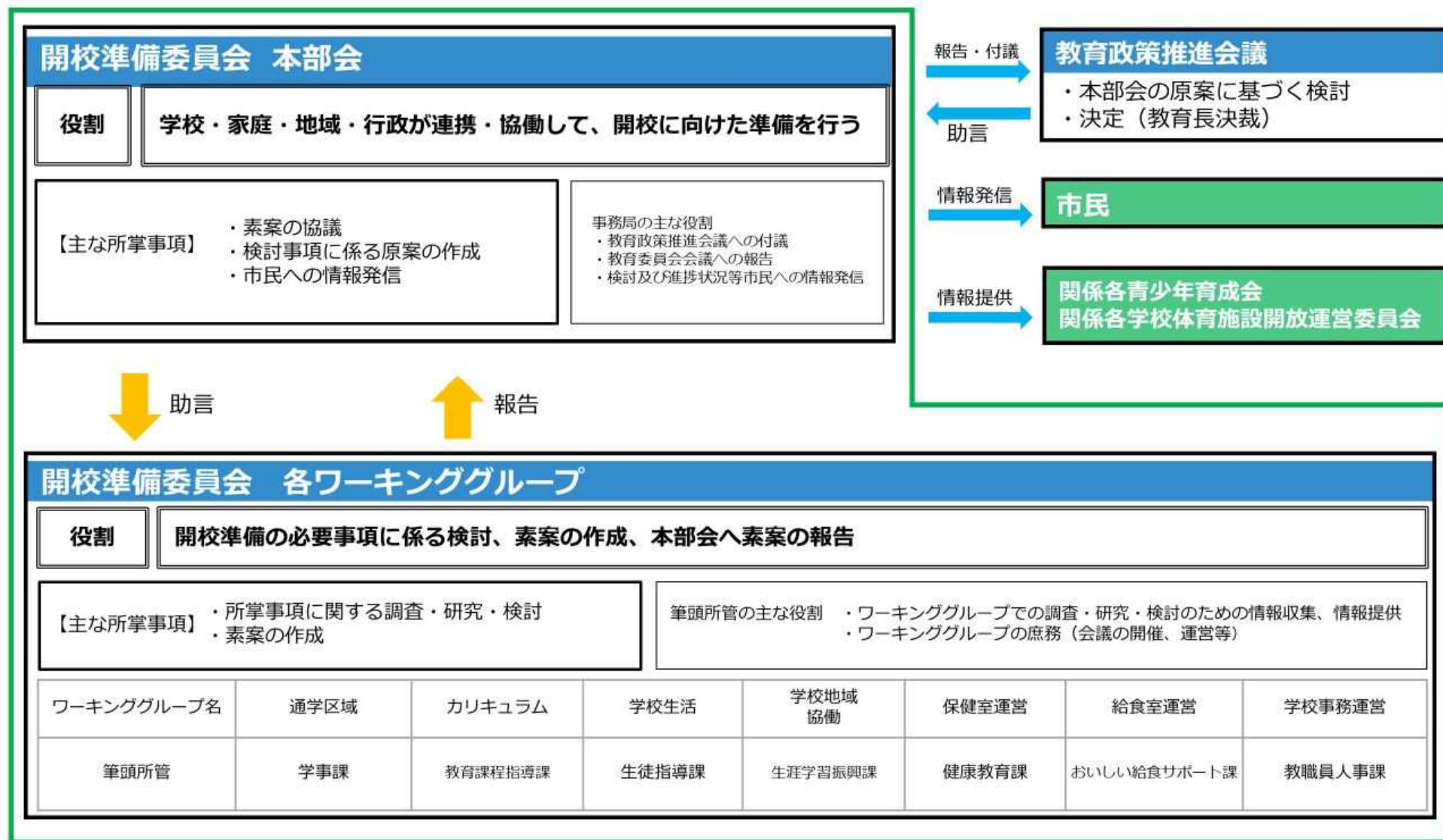
3. 令和8・9年度の開校準備委員会組織と参加者構成（案）について

武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校開校準備委員会 組織図（令和7年4月1日改定）



3. 令和8・9年度の開校準備委員会組織と参加者構成（案）について

武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校開校準備委員会 組織図（令和8年4月1日改定案）



3. 令和8・9年度の開校準備委員会組織と参加者構成（案）について

【ワーキンググループの参加者（保護者）募集要項】のうち、通学区域ワーキンググループの募集人数を以下のとおり改定する。

【現行】

2 募集人数

（1）募集人数は以下のとおりとする。

- ①通学区域ワーキンググループについては、浦和別所小学校、西浦和小学校、辻小学校、沼影小学校、浦和大里小学校、内谷中学校（以下、「関係6校」という。）の各校から保護者1名～2名とする。



【改定案】

2 募集人数

（1）募集人数は以下のとおりとする。

- ①通学区域ワーキンググループについては、浦和別所小学校、西浦和小学校、辻小学校、沼影小学校、浦和大里小学校、内谷中学校（以下、「関係6校」という。）の各校から保護者1名とする。（※別途、各校からPTA役員1名の推薦を募る。）

⇒家庭（保護者）の声に加え、通学上の安全性（見守り、通学班等）に継続的に関わっているPTA組織の意見もいただきたいと考えたため。

3. 令和8・9年度の開校準備委員会組織と参加者構成（案）について

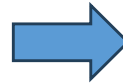
【ワーキンググループ及び本部会の参加者に係る関係団体からの推薦についての要項】のうち、通学区域ワーキンググループの推薦人数を以下のとおり改定する。

【現行】

2 推薦人数

（１）学校からの推薦人数は以下のとおりとする。

- ① 通学区域ワーキンググループについては、浦和別所小学校、西浦和小学校、辻小学校、沼影小学校、浦和大里小学校（以下、「関係小学校5校」という。）の各校から青少年育成地区会構成員1名とする。



【改定案】

2 推薦人数

（１）学校からの推薦人数は以下のとおりとする。

- ① 通学区域ワーキンググループについては、浦和別所小学校、西浦和小学校、辻小学校、沼影小学校、浦和大里小学校（以下、「関係小学校5校」という。）の各校から青少年育成地区会構成員1名、**関係小学校5校及び内谷中学校（以下、「関係6校」という。）の各校からPTA役員1名**とする。

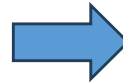
⇒家庭（保護者）の声に加え、通学上の安全性（見守り、通学班等）に継続的に関わっているPTA組織の意見もいただきたいと考えたため。

3. 令和8・9年度の開校準備委員会組織と参加者構成（案）について

学校参加者（教頭）を以下のワーキンググループに追加する。

【現行】

- ①校名・移行イベントワーキンググループのみ



【案】

- ①**学校地域協働ワーキンググループ**
(学校運営協議会、PTA、チャレンジスクール、SSN)
- ②**学校事務運営ワーキンググループ**
(人事配置、必要物品、校内インフラ、物品移送等)

- ⇒ ・校名・移行イベントワーキンググループが終了するため。
・学校地域協働WG、学校事務運営WGの調査研究・検討において、教頭が加わることで、より学校の実情に応じた意見交換を行うため。


3. 令和8・9年度の開校準備委員会組織と参加者構成（案）について

		参加者の構成	主な調査研究 事項	R 6・7 参加人数	R 8・9 再編予定
本部会		学校：校長（6校×1名） 家庭：PTA役員（6校×1名） 地域：学校運営協議会委員（6校×1名） その他：学識経験者（1名）	・各ワーキンググループからの素案の協議等	19	19
ワーキンググループ	通学区域	学校：学校地域連携コーディネーター等（6校×1名） 家庭：PTA役員（6校×1名） 保護者（6校×1名） 地域：自治会（関係4地区×若干名） 青少年育成会（小学校5校×1名）	・通学区域 ・通学路 ・通学方法	34	36
	カリキュラム	学校：教務主任等（6校×1名） 教員（浦和別所小・沼影小・浦和大里小・内谷中×1名） 家庭：保護者（6校×1～2名） 地域：青少年育成会（小学校5校×1名） その他：児童生徒（児童会・生徒会で話合いやアンケートの実施を想定） 学識経験者（必要に応じて助言をもらう）	・学校行事 ・クラブ活動や委員会活動等 ・学用品 ・特別支援教育	22	27
	学校生活	学校：生徒指導主任等（6校×1名） 教育相談主任等（6校×1名） 教員等（浦和別所小・沼影小・浦和大里小・内谷中×1名） 家庭：保護者（6校×1～2名） その他：児童生徒（児童会・生徒会で話合いやアンケートの実施を想定）	・学校生活のきまり等 ・Solaるーむ ・さわやか相談室	23	28
	学校地域協働	学校：教頭（6校×1名） 学校地域連携コーディネーター等（沼影小・浦和大里小・内谷中×1名） 家庭：PTA役員（沼影小・浦和大里小・内谷中×1名） 地域：学校運営協議会委員（沼影小・浦和大里小・内谷中×1名） チャレンジスクール（沼影小・浦和大里小・内谷中×1名） SSN（沼影小・浦和大里小・内谷中×1名）	・学校運営協議会 ・PTA ・チャレンジスクール ・SSN	15	21

3. 令和8・9年度の開校準備委員会組織と参加者構成（案）について

		参加者の構成	主な調査研究 事項	R 6・7 参加人数	R 8・9 再編予定
ワーキング グループ	保健室 運営	学校：養護教諭（沼影小・浦和大里小・内谷中×1名）	<ul style="list-style-type: none"> ・保健室運営 ・保健室（施設） ・学校安全等 	3	3
	給食室 運営	学校：栄養教諭等（沼影小・浦和大里小・内谷中×1名）	<ul style="list-style-type: none"> ・調理業務 ・給食室（施設） ・配膳計画等 	3	3
	学校 事務 運営	学校：教頭（6校×1名） 学校事務職員（沼影小・浦和大里小・内谷中×1名）	<ul style="list-style-type: none"> ・人事配置、費用 ・必要物品 ・校内インフラ 	3	9

3. 令和8・9年度の開校準備委員会組織と参加者構成（案）について

年度		R 6		R 7				R 8			R 9		
本部会		10・1月	4月	7月	10月	1月		5月	10月	1月	5月	10月	1月
 本部会の各回において、各ワーキンググループからの報告に対する意見交換等を行う													
ワーキンググループ	通学区域	通学区域の調査研究、意見交換					通学路・通学方法・通学路安全対策の調査研究、検討・実施						
	カリキュラム	学用品・部活動・日課表の調査研究、意見交換					特色あるカリキュラムの調査研究・意見交換、部分的施行実施						
	学校生活	学校生活のきまり・教育支援・相談体制の調査研究、意見交換					学校生活のきまり・教育支援・相談体制の調査研究、意見交換、環境整備						
	学校地域協働	学校運営協議会・PTA・チャレンジスクール・SSNの組織等についての調査研究、意見交換											
	給食室運営	給食施設・給食室運営の調査研究、意見交換					給食室運営の調査研究、意見交換						
	保健室運営	保健室運営の調査研究、意見交換					保健室運営の調査研究、意見交換、マニュアル作成						
	学校事務運営	既存施設の改修、新施設（レイアウト・ICT設備等）環境整備計画、人事（配置・人件費）の検討											

■■■■ ・・・家庭、地域からも参加

■■■■ ・・・学校、行政のみ

■■■■ ・・・今回募集する参加者の参加期間

3. 令和8・9年度の開校準備委員会組織と参加者構成（案）について

**ご応募
お待ちしております**

武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校開校準備委員会 ワーキンググループの参加者（保護者）募集について



※沼影新設校舎のイメージ図



※開校準備委員会の様子

武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校開校準備委員会とは

「武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校開校準備委員会」（以下、開校準備委員会）は、通学区域、学校行事、学校生活のきまりなど、義務教育学校の開校に向けた準備を、学校・家庭・地域・行政が連携・協働して進めるための組織です。全体を取りまとめる「本部会」と具体的な事項を調査・研究する「ワーキンググループ」で構成しています。

令和6・7年度は、推薦や公募により選出された延べ140名を超える参加者と様々な意見交換を行いました。

開校準備委員会のワーキンググループについて

新たに設置する義務教育学校について、下の表にある内容についてそれぞれ調査・研究するワーキンググループを再編します。各ワーキンググループでは、ワークショップ形式で、参加者による率直な意見を交換するため、参加希望の保護者を募集します。


	参加者の構成（学校・家庭・地域・その他）	主な調査研究予定事項
通学区域 ワーキング グループ	学 校：学校地域連携コーディネーター等（6校×1名） 家 庭：保護者（6校×1名）※別途、PTA役員6校×1名が参加予定 地 域：自治会（沼影4地区会×若干名）、青少年育成地区会（小学校5校×1名）	・通学区域 ・通学路 ・通学方法 など
カリキュラム ワーキング グループ	学 校：教務主任等（6校×1名）、教員（内谷中・浦和大里小・沼影小・浦和別所小×1名） 家 庭：保護者（6校×1～2名） 地 域：青少年育成地区会（小学校5校×1名） その他：児童生徒（児童会・生徒会で話し合いやアンケートの実施を想定） 学調観察者（必要に応じ助言をいただく）	・学校行事 ・クラブ活動や委員会活動等 ・学用品 ・特別支援教育 など
学校生活 ワーキング グループ	学 校：生徒指導主任等（6校×1名）、教育相談主任等（6校×1名） 教員（内谷中・浦和大里小・沼影小・浦和別所小×1名） 家 庭：保護者（6校×1～2名） その他：児童生徒（児童会・生徒会で話し合いやアンケートの実施を想定）	・学校生活のきまり ・Solaるーむ ・さわやか相談室 など

※6校：小学校5校（浦和別所小・西浦和小学校・辻小学校・沼影小学校・浦和大里小学校）、内谷中学校
※上記の各ワーキンググループには、教育委員会の担当所管が事務局として参加します。
※上記以外にも、学校（教職員）と教育委員会担当所管で構成するワーキンググループ（保健室運営、給食室運営、学校事務運営）があります。

ワーキンググループの参加者募集（詳細）

募集人数	①通学区域ワーキンググループ（各校 保護者 1名） ※別途、各校PTA役員1名が参加予定 ②カリキュラムワーキンググループ（各校 保護者 1～2名） ③学校生活ワーキンググループ（各校 保護者 1～2名）
応募要件	令和8年4月1日時点で、次の要件を満たす方 （1）浦和別所小、西浦和小、辻小、沼影小、浦和大里小、内谷中のいずれかに在籍する児童生徒の保護者 （2）平日日中の活動に参加可能な方
参加期間	令和8年4月から令和10年3月末まで ※転出等、やむを得ない事情がある場合は、この限りではありません。
開催時間帯・開催回数	・ワーキンググループは、教職員の参加に伴い、平日の日中（2時間程度）の活動を予定しています。 ・ワーキンググループの開催回数、及び日程は、各ワーキンググループの調査研究状況により異なります。（令和7年度の実施状況は概ね2～3か月に1回程度）
開催場所	武蔵浦和駅周辺の学校又は公共施設
報酬・交通費等	報酬はありません。 交通費・食費の支給はありません。
応募期間	〇月〇日（〇）～〇月〇日（〇） 応募締切：〇月〇日（〇）16時必着
応募方法	エントリーシートに必要事項を記入し、封筒に「開校準備委員会ワーキンググループの参加者エントリーシート在中」と明記の上、各学校教頭宛に直接御提出ください。 提出受付時間：平日9：00～16：00 ※お子様を通じての提出も可能です。直接の提出が難しい方は、学校へ御相談ください。
選出方法（流れ）	●各学校が応募内容を確認し、趣旨に沿った方を選出します。 ●応募多数の場合、第1希望者を対象に下記の①②を考慮し選出します。 ①通学区域（浦和別所小・西浦和小・辻小：指定校が内谷中となっている場所にお住まいの方を優先） ②児童生徒の在籍予定期間（令和8～10年度に、各学校に在籍予定の児童生徒保護者を優先） ※①②を考慮してもなお学校が選出できない場合、学校による抽選を行います。 ●第1希望者で定員を充足しないワーキンググループにおいては、第2希望者を対象に上記と同様に選出します。第3希望者についても同様とします。 なお、希望者がいない場合、応募者不在とみなしPTAによる団体推薦とします。
選出結果	令和8年3月下旬を目途に、選出された方へのみ、各学校より連絡します。
その他	エントリーシートは、返却いたしませんので、御了承ください。 応募の際にいただいた個人情報は、参加者選出に関する事務以外の目的には使用しません。 参加者に選出された方の個人情報は、ワーキンググループの開催のため、教育委員会事務局に提供します。

・お問合せは、各学校までお願いします。
・武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校開校準備委員会についてのホームページはこちら
<https://www.city.saitama.lg.jp/003/002/001/p113816.html>

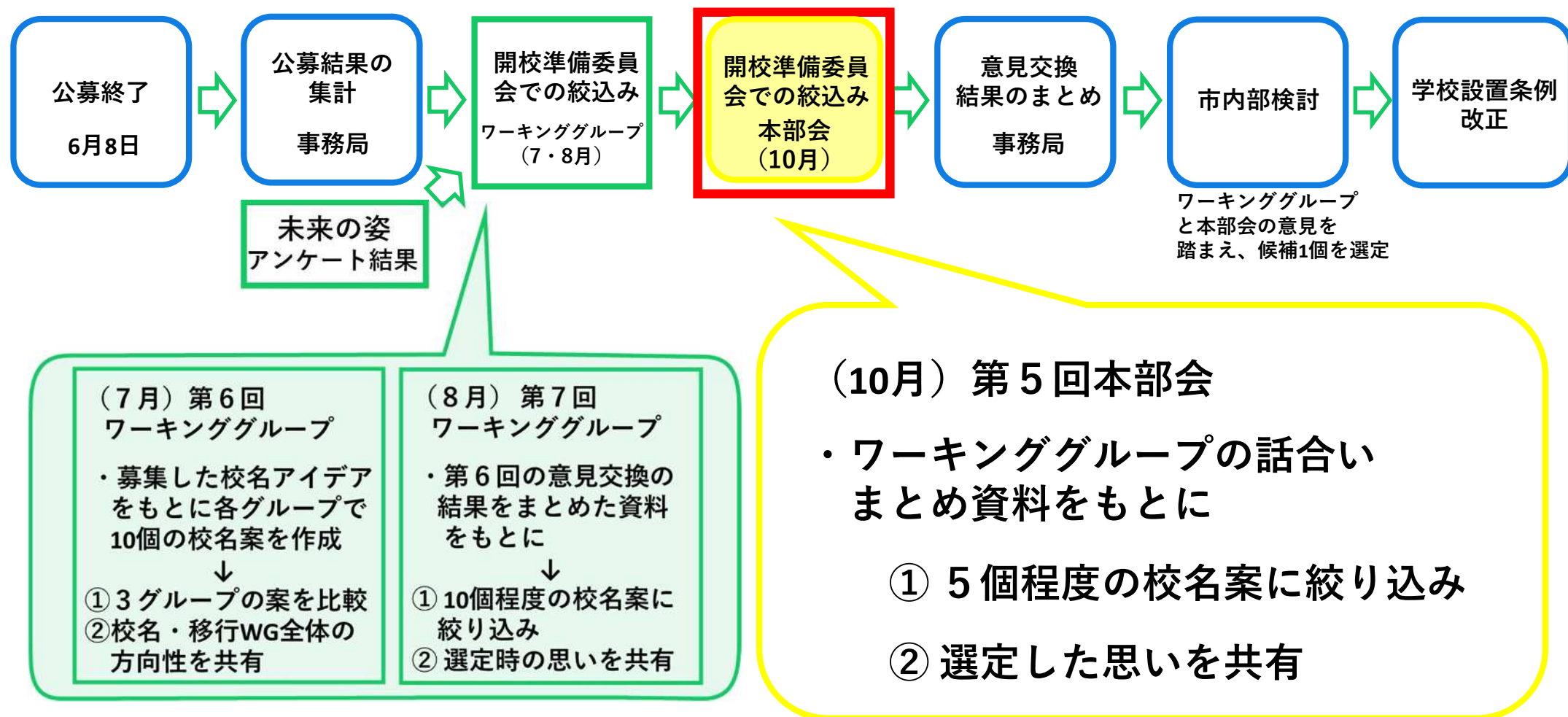


4. 意見交換（校名の絞り込みについて）

■ 応募状況

＜応募件数＞ 計 1,353件 （うち在校生1,107件）

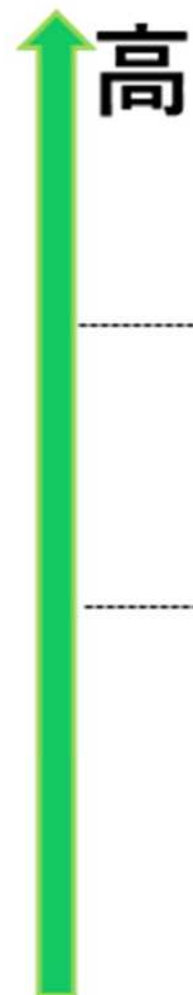
■ 校名選定の現状とその後の校名検討の流れ



4. 意見交換（校名の絞り込みについて）

■ 校名アイデアの絞り込み結果

よいと思う度合い



① 武蔵浦和	② 武蔵うらわ	
③ 武蔵浦和学園	④ 武蔵浦和 みらい	
⑤ さい もり 彩の杜	⑥ 武蔵みなみ	⑦ 武蔵未来
⑧ 武蔵みらい	⑨ さいたま南	⑩ むさし浦和

4. 意見交換（校名の絞り込みについて）

■ 全体的な絞り込みの方針に関する意見

- ❶「義務教育学校」と合わせたとき、漢字が長く続かないよう、ひらがなが入った方が響きがやわらかくなるのではないか。
⇔ 一方「将来にわたって愛着が持てる」という選定基準から考えると、世間に通用している表記を用いるのがよいのではないか。
- ❷表の通り、「武蔵浦和」という名前を大事にしたいという意見が多かった。

■ 個別の校名案ごとの選定理由等 * 番号は左の枠に対応

該当校名案	選定理由
❶武蔵浦和 ❷武蔵うらわ ❸武蔵浦和学園 ❹武蔵浦和みらい ❺むさし浦和	「武蔵浦和」は三校の児童生徒が利用する駅名であるため、三校を平等に扱うイメージがあり、「愛着が持てる」という選定基準にも合うのではないか。
❸武蔵浦和学園	「学園」は「学びの園」として、「みんなで育っていく場所」というアピールになる。報道等で仮称として使われているケースもあり、「愛着が持てる」という選定基準にも合うのではないか。
❹武蔵浦和みらい ❷武蔵未来 ❸武蔵みらい	子どもたちの「未来の姿」を考える上で、プラスのイメージを持つ「未来」を取り入れるのはどうか。
❺彩の杜	「三つの校舎が一つの森になる」という応募理由のストーリー性がよいと思う。
❻武蔵みなみ ❹さいたま南	さいたま市の南側かつ南区にあるということから、地域性のある名前として「南」を取り入れるのもよいと思う。

4. 意見交換（校名の絞り込みについて）

校名アイデア絞り込み時に参照していただきたい事項

① 募集の際に示した選定基準に即した選定を行う。

選定基準

- ①地域性があり将来にわたって愛着が持てること。
- ②さいたま市における、既存の学校名と同一の名称でないこと。

② 本部会で検討している「未来の姿」を拠り所とする。

第4回本部会（7月）提案時点での「未来の姿」（抜粋）

【地域の核（拠点）として】

- ・ 南区の顔、交流の拠点となる学校
- ・ 多様な人材を活かし、地域から学び、地域も学ぶ学校
- ・ 親しみと愛着で地域から愛され、誰にとっても生涯の学びの拠点となる学校

③（参考）校名・移行ワーキンググループであがった校名に関する意見抜粋

- ・ 新しさ、未来が感じられ、親しみも感じられるものがよい。
- ・ 武蔵浦和地区の発展し続けるようなイメージが浮かぶものがよいのではないか。
- ・ 大きく開けていく、あるいは伸びていくようなイメージの校名がよいのではないか。
- ・ 子どもたちにも分かりやすい、覚えやすい。
- ・ 発音しやすい、呼びやすい、書きやすい、読みやすく、親しみがもてる
- ・ ○○第一といったナンバースクールは避けた方がよい。

4. 意見交換（校名の絞り込みについて）

意見交換

（個人での絞り込み） ※ WGの絞り込み結果を参考に5個の校名案を作成する

上位

下位

（グループの絞り込み）

上位

下位

- ・ 上の段にあるほど、「とくによいと考えている」アイデアとして記入します。
- ・ 同じくらいよいと考えているものは、同じ段に記入できる図です（細かい順位を決める必要はありません）。
- ・ 5マスに収まるように作成をお願いします。

※ 選定理由などのメモにお使いください

次回の本部会は
1月下旬開催予定です。

本日はご参会頂き、
ありがとうございました。